

# 保健指導に必要な 基本的な考え方

「標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21（第2次）」の達成に向けて～」(平成27年3月発行)(以後、「手引き」と略します)第6章もご参照ください。

# 内容

- 1 乳幼児健康診査における保健指導の目的
  - 2 乳幼児健診における標準的な保健指導
  - 3 乳幼児健診における保健指導の特徴
  - 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点
  - 5 個別指導と集団指導によるアプローチ
  - 6 対象時期別保健指導のポイント
  - 7 乳幼児健診を軸とした継続的支援
  - 8 スキルアップ 研修事例(大阪府高槻市)含む
- 2-1資料1 “保健指導のコツ”～熟練保健師インタビューから～

# 1 乳幼児健康診査における 保健指導の目的

## 【乳幼児健診における保健指導の目的】

親子の顕在的および潜在的な健康課題を明確化し、その健康課題の解決に向けて親子が主体的に取り組むことができるよう支援すること

## 2 乳幼児健診における標準的な保健指導

ここでいう「標準的な保健指導」とは...

「全国どこでも、どの健診従事者が実施しても、  
全ての親子に必要な支援が行き届くような保健  
指導」



全国どこでも一定水準の乳幼児健診の実現へ

# 3 乳幼児健診における保健指導の特徴

## 1) 対象者の特徴

### (1) 現代の親子を取り巻く状況

- 産後うつ

産後1か月でEPDS 9点以上の褥婦の割合9.0%

(平成25年度「健やか親子21」最終評価、平成25年11月28日発表分)

- 育児不安

昔も今も変わらない育児不安

(参考文献「子育ての変貌と次世代育成支援」、原田正文、名古屋大学出版会、2006)

- 児童虐待

児童相談所での児童虐待相談対応件数は年々増加

→親への精神的支援、環境的支援の必要性

# 3 乳幼児健診における保健指導の特徴

## 1) 対象者の特徴

### (1) 現代の親子を取り巻く状況

- ・ 少子化、核家族化、地域の人間関係の希薄化等
  - 子育ての孤立化
- ・ 親自身の子育てに関する体験不足  
+ 子どもの心身の発育・発達の偏り等
  - 「育てにくさ」を感じる親
- ・ 情報過多社会
  - 子育て情報へのアクセスの容易さと  
正しい情報へのアクセスの難しさ

# 3 乳幼児健診における保健指導の特徴

## 1) 対象者の特徴

### (2) 対象者の多様性

- 家庭状況・子育て状況の多様化

共働き世帯

外国人世帯

一人親家庭

里親 など…

→ 様々な家庭の背景を持つ子どもが対象であることを十分に認識する必要性

### 3 乳幼児健診における保健指導の特徴

2) 子どもは一人ひとり異なる資質や特性をもっている

- 発達過程やその順序性には共通する特徴がある
- 一方で、成長の個人差は大きい

→ 成長発達のプロセスを見通した予防的・継続的な支援を行うことが重要

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

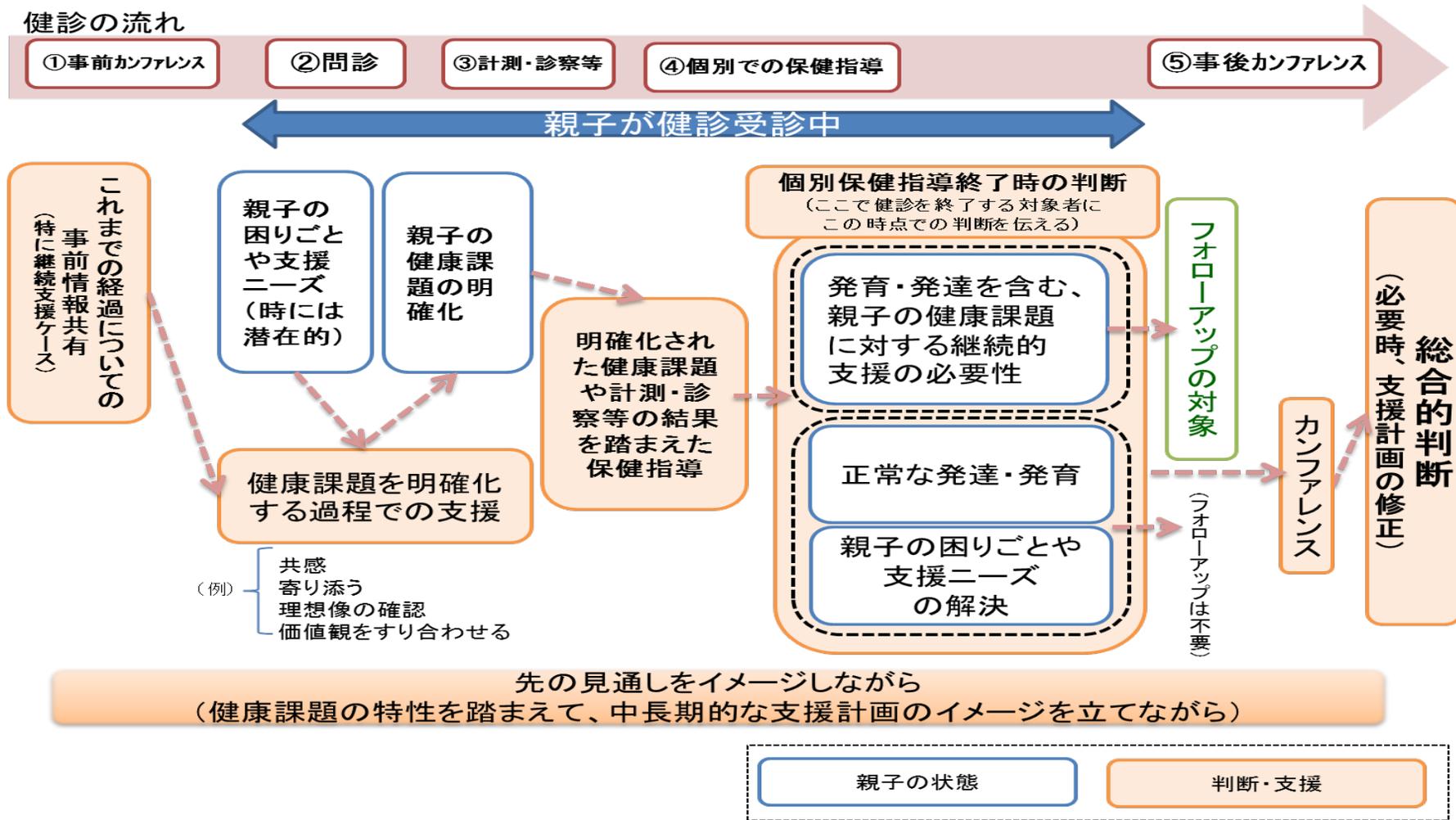


図4.1 乳幼児健診時の保健指導プロセスの一例

(手引きP59より)

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 1) 事前カンファレンス

- ・ 特に継続支援ケースでは、健診の前に健診従事者間で、これまでの経過や今回の健診で重点的に確認すべきことなどの情報共有  
→ 健診までの経過を踏まえた継続性のある保健指導

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 2) 問診

- ・親子の困りごとや支援ニーズ(顕在的・潜在的)を一緒に確認
  - 「**親子の健康課題の明確化**」  
(健診の中のどの場でどんな確認や支援をすべきかを整理できる)
- ・**支援の始まり**(健康課題を明確化する過程での支援)
- ・発育・発達状況に加えて、生活習慣や家族の健康状態等含めた**多角的アセスメント**

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 2) 問診

### 保健指導のコツ(熟練保健師インタビューより)

- 問診票を事前にみて会う前にどこから入るか目星をつける(例えば「支援者がいない」など)
- 問診票を事前に確認し、時間をかける必要があるケースかどうかといった優先度をつける
- 「絶対何か困りごとや悩み事がある」という確信のもとでコミュニケーションをとる。
- 保護者は基本的には相談したいと思っている人が多いので、それを引き出せるかがポイント
- 生命の危機に関わるようなこと以外は、全ての必要な情報をとることにはこだわらず、次につながる信頼関係づくりを優先する など...

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 2) 問診

### 保健指導のコツ(熟練保健師インタビューより)

- 差し障りのないところから生活を聞いていく  
例:まず生活全体を生活の流れに沿って聞いていき、それに関連付けて、お母さんが困っていること、しんどいことに耳をかたむけ、「そういうときにちょっとイライラしたりしちゃったんですかね?」といった感じで近づけていく。無理にはしない。
- 身体的な点から聞いていく(保護者も含めて)。(母子健康手帳をよくみたら、お母さんの血圧が高い、など)
- 困りごとは生活・暮らしの流れに沿って聞く(寝ること、食べることなど)(そして発達とも関連付けてアセスメントする)
- お母さんが書いてきていないことも聞いてみる(例:上の子はどうですか?)
- 緊張が高い場合...例えば、「お子さんの名前は どうやって決めたんですか?」といった話題から入る  
など...

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 3) 計測・診察

- ・子どもの全身の観察ができる機会
- ・子どもの反応やそれに対する親の対処についても把握
- ・違った場面で違った職種が関わる利点

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 4) 個別の保健指導とフォローアップについての判断

- ・明確化された健康課題や計測・診察等の結果を踏まえた保健指導

発育・発達、授乳・離乳、食事・食習慣、歯・口腔機能、生活環境および生活全般等

- ・「先の見通し」を持った予防的保健指導

- ・個別保健指導終了時の判断

親子の健康課題に対する継続的支援の必要性について判断し、保護者と共有する

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 4) 個別の保健指導とフォローアップについての判断

- ・フォローアップの必要性

手引きでは「その後の経過を追い、結果の確認を行う必要がある場合」を指す

- ・保護者との関係性が切れないように・・・

支援の受け入れに拒否的な場合

・・・子どもの生命・成長・発達への影響を考慮しつつ、  
**中長期的な支援へ**

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 4) 個別の保健指導とフォローアップについての判断

### 保健指導のコツ(熟練保健師インタビューより)

- 困りごとに対して、「大変ですね」とまずは共感。困りごとを一緒に整理したいことを伝える。一緒に考える。
- 困りごとに対して、1つでもコツを伝える。具体的エピソードも添えるとさらに良い
- 「ちゃんと答えがもらえた」と思ってもらえるように
- 見通しを伝える
- とにかく丁寧に対応。言葉づかいも丁寧に。

など...

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 4) 事後カンファレンスおよび総合判定

- ・健診従事者同士での情報共有

様々な職種が、様々な場面で得た、様々な情報を統合  
多職種連携が不可欠

- ・個別の保健指導で行ったフォローアップの判断や支援の妥当性について議論し、総合的判断へ

- ・フォローアップが必要な場合・・・支援の方向性を確認

# 4 乳幼児健診における保健指導実施のプロセスと留意点

## 4) 事後カンファレンスおよび総合判定

### ・カンファレンスの意義

親子への適切な支援、支援の質の向上

新任期のOJT (on-the-Job Training) 教育の場としても有用

### 保健指導のコツ (熟練保健師インタビューより)

- カンファレンスの場を活用し、保健指導を振り返り、さらに質の高い保健指導を目指すために、先輩から助言を得る など...

# 5 個別指導と集団指導によるアプローチ

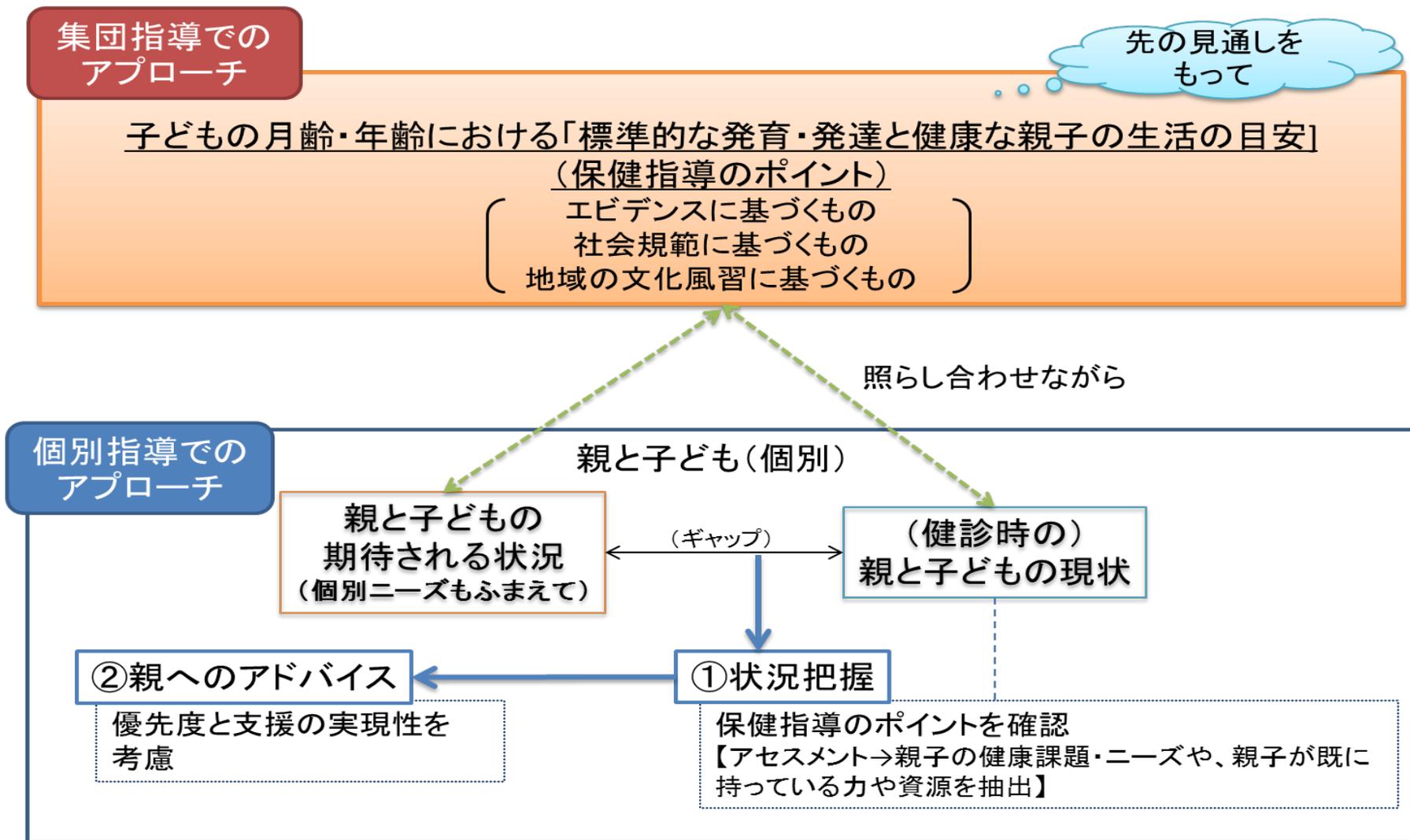


図4.2 乳幼児健診における個別指導と集団指導によるアプローチ

(手引きP62より)

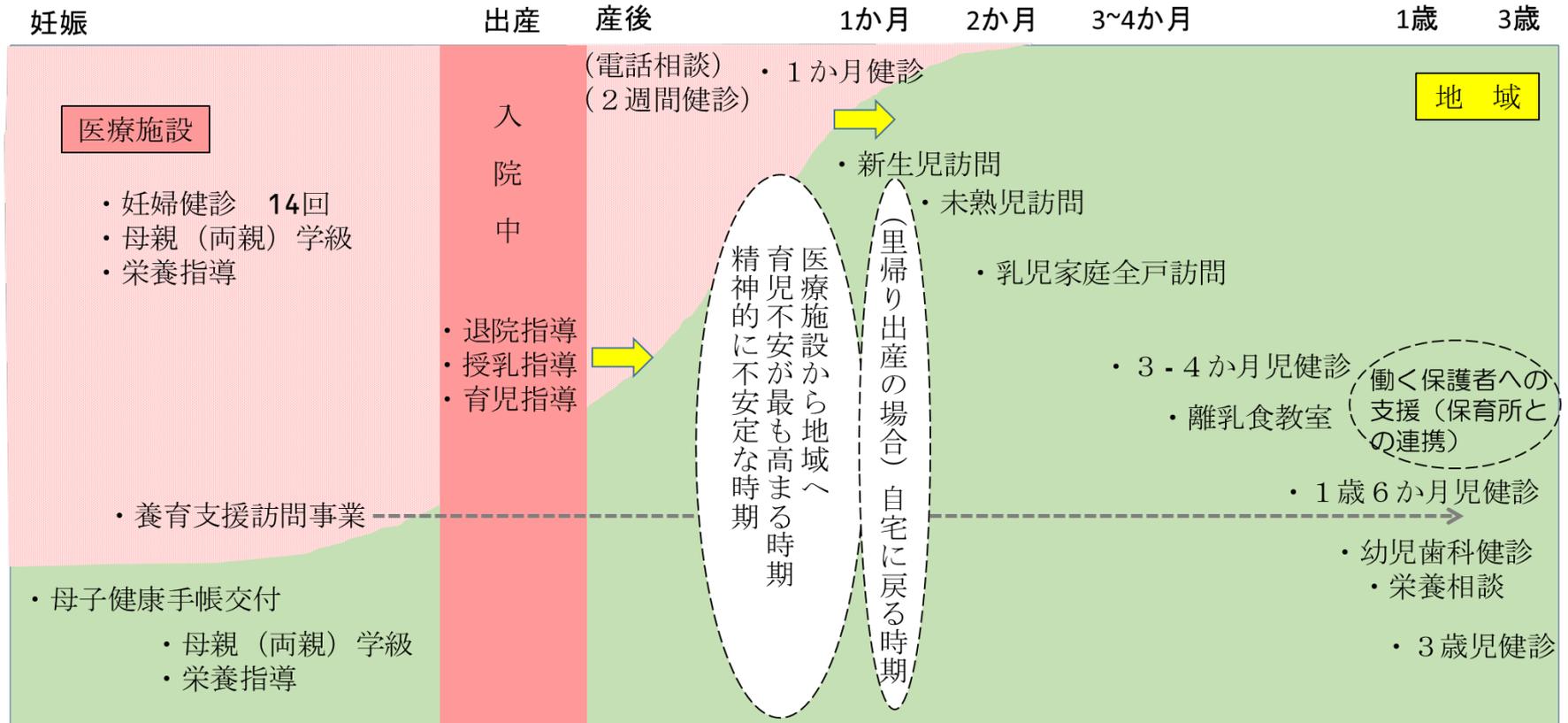
## 6 対象時期別保健指導のポイント

- ・ 子どもの月齢・年齢に応じた「標準的な発育・発達と親子の健康な生活の目安」を念頭に
  - ・ 十分に個別性もふまえて支援
  - ・ 次の健診やフォローアップの時期を見通した「標準的な発育・発達と親子の健康な生活の目安」を伝えることも支援のひとつ
- ◆ 詳細は、第2章第3節および冒頭に紹介した手引き(P62～65)をご参照ください。また歯科保健指導のポイントは第5章第4節および手引きP79～82、栄養指導のポイントは第5章第5節および手引きP74～78をご覧ください。

# 7 乳幼児健診を軸とした継続的支援

## 1) 親子への継続的支援

### 妊娠期からの一貫した情報把握と支援体制



妊娠中から出産までは医療者や保健従事者と接する機会が多い。産後は、医療から地域へ移行。連携が重要。

図4.3多職種連携による母子保健指導における妊娠期からの継続的支援（手引きP68より）

# 7 乳幼児健診を軸とした継続的支援

- 2) フォローアップが必要な場合の継続的支援
- 3) 母子保健事業に関わる関係機関の連携
- 4) 地域の資源へのつなぎ

## 保健指導のコツ(熟練保健師インタビューより)

- 子どもの遊ばせる場所など、保護者の関心が高そうな話題から入る
- 具体的に伝える
- 見通しをつける
- 拒否傾向でもこちらはこれからも支援したいことを発信しておくこと  
などが大事  
など…

## 8 スキルアップ

### 1) 受診者との丁寧な対話から支援につなげる スキル

基本は乳幼児健診に限らない、対人関係スキルを含めた日常の保健活動において必要なスキルアップが必要

### 2) 健診従事者間においてめざすところや健診の意義を共有し、モチベーションアップにもつなげる

所属自治体の母子保健計画や「健やか親子21(第2次)」で母子保健の目指す理念を改めて確認し、その中での健診の位置づけと意義を振り返る等

## 8 スキルアップ

### 3) 定期的な体験的学習と振り返りの機会

最新の知識・情報等の学習とともに、ロールプレイ研修など体験的学習を行い、日々の保健指導について振り返る機会

### 4) 日々の活動の中でのスキルアップ

先輩をお手本に日々の活動の中でスキルアップ  
乳幼児健診では、事後カンファレンスを先輩や多職種の視点などを実際のケースを通して学べる貴重な機会とする等

## 8 スキルアップ

### 現任者スキルアップ研修の事例紹介(概要)～大阪府高槻市～

高槻市は京都と大阪の中間に位置する人口約35万人の中核市で、高齢化率は27.6%（平成27年12月31日）\*<sup>1</sup>、年間出生数2,663人（平成28年）\*<sup>2</sup>、出生率は人口千対7.6（平成28年）\*<sup>2</sup>である。

複雑多様化する対象者の背景や健康課題に対応し、対象者が「来てよかった」と思える健診を目指して、「寄り添う支援」をキーワードとした研修を平成29年度に実施した。

本研修は高槻市子ども未来部子ども保健課と当事業における保健指導編担当者とのタイアップにより実施した。

概要は次のスライドのとおりである。

\*1 高槻市ホームページ 平成28年版高槻市統計書

\*2 大阪府ホームページ 人口動態総覧

# 8 スキルアップ

## 現任者スキルアップ研修の事例紹介(概要)～大阪府高槻市～

➤ **主な対象者**: 乳幼児健診に従事する保健師(非常勤従事者を含む)

➤ **研修のねらい**

- ①「健やか親子21」からみた健診の位置づけを確認し、前向きに健診に従事できるような動機づけができる
- ②乳幼児健診における保健指導の基本と意義を確認できる
- ③寄り添う支援の重要性を確認できる

➤ **方法**

2回1コースの研修

1回目: 座学(上記のねらいに関連した内容)

2回目: ロールプレイ研修(個別保健指導の場面を想定した演習)

2パターンのロールプレイの実施と振り返り、使った技術の抽出等

意図的に「寄り添っていない保健師」の設定でまずは実施し、その振り返りを行ったうえで、次に「寄り添った保健師」のパターンで実施。「母親役」も体験。

# 8 スキルアップ

## 現任者スキルアップ研修の事例紹介(概要)～大阪府高槻市～

### ▶ 参加者の主な感想

- 1回目の講義編では、「「健やか親子21(第2次)」の理念などを改めて振り返ることで、広い視野をもって健診について考えることができた」「健診の基本を見直すことで、1つ1つの場面で丁寧にみていく必要性を改めて確認できた」「生まれたときから支援はスタートしている」「多職種で関わる意義を再確認できた」などの感想が聞かれた。
- 2回目の演習編では、「ロールプレイといえども、母親の気持ちが実感できた」「寄り添っていない保健師の設定は、保健師役も母親役もつらく、寄り添った支援の重要性をより体感できた」などの意見が出された。

# 8 スキルアップ

## 現任者スキルアップ研修の事例紹介(概要)～大阪府高槻市～

### ▶ ファシリテーターの視点からみた研修の効果

- 母子保健のめざすところである「健やか親子21(第2次)」については、多忙な日常業務の中でなかなか落ち着いて振り返る機会がないことが多いが、1回目の講義編では改めて振り返る機会となり、日々の健診事業での関わりが、最終的には親子の健やかな生活につながることに、その意義などを考察できる機会となったと思われる。
- 2回目の演習編では、母親役の気持ちも改めて実感したり、寄り添う支援について考えることができる機会となった。さらに、グループワークで今回のロールプレイ演習で用いた保健指導技術について議論することで、普段用いている技術を可視化することができた。それらを共有することで今後の支援能力向上に向けて、各自がもつ保健指導技術の「引き出し」を増やすことにもつながったのではないかと考えられる。

# 8 スキルアップ

現任者スキルアップ研修の事例紹介(概要)～大阪府高槻市～

## ➤ ファシリテーターの視点からみた研修の効果(つづき)

- さらに、非常勤従事者も含めて同じ研修を行うことで、全体の対応・水準の質が保たれた標準的な保健指導体制構築にもつながったことが考えられる。

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ”

### ～熟練保健師インタビューから～

## 調査概要

目的: 乳幼児健康診査において、健康課題の抽出および継続的支援に必要とされる保健指導技術について熟練の保健師から収集し、新任期の研修等に活かせる基礎資料を得ること。

対象者: 概ね保健師経験25年以上または母子保健分野の業務への  
従事経験10年以上の保健師 4名  
(所属自治体の種類)

政令指定都市・特別区・・・2名、市・・・2名

(保健師経験年数) 14年～35年

(母子保健従事年数) 11年～35年

次のスライドから、結果の一部をお示しいたします。

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 会う前に(問診の前に)...

- 問診票から対象者にメッセージを伝える糸口をさぐる

「問診票からぴぴぴっと引っ張らないといけないかなと思うんですよ。兄弟関係、何人いるとか、上の子は何歳で下の子は何歳でって、この子は、対象の子はどの順位か…そこから話題になってきてっていうので、話ができますよね。なので、やっぱり基本情報を健診の前にさっと見る。そのお母さんにメッセージを伝える糸口にする。」

- 待合いのところで、まずはアセスメントする

「名前呼ぶ前にまず、どんなふうにご経過してるか、母子関係、名前を呼んで、名前を呼んだのに反応するか、名前を呼んだときにこっちを振り返るか…指示に応じて立ち上がってついてこれるか、歩き方どうかみたいな形で、発達の評価の部分だったら大概そこでわかる」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 会う前に(問診の前に)...

- 持っている荷物からもアセスメント

「おむつとか、最低限持っておかないといけないものがあるじゃないですか。でも、それを持たずに来てたら、気になりますよね。荷物の量も、持ち過ぎのお母さんがいたら、不安なんだろうなって思う…」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### まずは信頼関係づくり...そのコツ

- 「来てくださってありがとう」の気持ち

「健診は評価される場所だと思ってお母さん来るお母さんもおられるので、私たち、評価者じゃないよというメッセージ伝えないといけない... 決まりきってるかもしれないんですけど、『ほんとうによくお出でいただいた』『暑いのにね、大変でしたね』というような、『よくお出でくださいました』というウエルカムメッセージが大事。あとは、それこそね、笑顔なんでしょうけどね。やっぱりその辺が自然と出るように。」

「来てくれて当然じゃない、みんな時間をつくって来てくれてるので、来てよかったと思える健診になるような態度を示す」

- 必ず自己紹介してから

「『私は保健師の何々です』といってから、『お名前教えてください』ときく」

- 子どもさんを褒める

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### まずは信頼関係づくり...そのコツ

#### • まずは挨拶から

「やっぱりファーストコンタクトというか、第一声目のときに、『こんにちは』」

「『お待たせしました』という言葉かけを入れる」

「子どもの目線に立って挨拶をする」

#### • 基本的なことに気を付ける

「名前と性別を間違えない」 「上から目線にならない」

「きちんとやわらかい笑顔がつかれる」

「保健師さん、感じいいかもと思ってもらえるように」

#### • とともに成長を喜び合う

「『大きくなったね』とか、『かわいくなったね』といったところから共有する」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### まずは信頼関係づくり...そのコツ

- ここから情報が漏れることはない伝える

「健診の場からは漏れないってことを伝えてあるので、「お母さん、誰にも言えないような悩みとか、あるよね」とか、「ここからだったら漏れることはないから、友達とかに話しにくいこととかも話しているんだよ」ということが伝わるようにする」

- きちんと同意を得る

「お母さんに、『2歳になってどんなことができるようになったか、直接子どもさんとやりとりさせてもらいますね』ってというような形で同意を得る。『～させてもらいますね』みたいな感じでやりとりするようにはマナーとして大事かなと思います」

- 1つでも“お土産”を持って帰ってもらう

「何か1個はお土産持って帰ってもらおうかなっていうのは思うので、きょうのお土産をどうしようかなと考える」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 問診の基本

- **長くなりすぎない(ただし必要時には時間をかける)**  
「問診、基本的に10分以内、ちょっとその辺はセーブしながらやります」
- **最初に健診の意義を伝える**  
「健診が何をする場かっていうところを伝える」
- **子どもがとにかく飽きないようにテンポよく**
- **複数の視点から多角的に親子をみる工夫**  
「問診と相談は必ず別の保健師が入るようにしてるので2つの目で見える。問診で気になった部分があったら、シートに書き込むなどして相談の保健師に伝える」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### “かたい”“緊張している”対象者に対応する際のコツ

- 何かを一緒にして場を共有し、その空間を和ませる

「1歳6カ月だったらベビーチェアに乗って頂くので、そこでね、やっぱりきちなくしてるお母さんだったら『一緒にやりますよ』ってやらしてもらったりとか、やっぱりそういう場を共有していったりとか、『お母さん、大丈夫?』とか、『荷物、ここ置いてくださいね』とか、何かそういう、ちょっとお母さんを案内するようなところで和まれるとオーケーですし」

「4か月だったらマザーズバッグ持ってるんですよ。片側にさげて、赤ちゃんだっこしてて、でも、結構な荷物、持っていたりするんで、そのかばんをさっとね、…お母さんは赤ちゃんをどうにかしないといけないうって、もぞもぞされるので、『ここに置いてね』とか、『ちょっと預かるね』、だっこひもとかしてたら『ちょっと外すね』とか、そんな形で、わりとお母さんは4か月の時は自分自体の身のこなしができてない時期なので、まずそこで何かできると思います」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### “かたい”“緊張している”対象者に対応する際のコツ

- 遠回しからスタート

「難しいなと思ったら、もうほんとうにその話題にはちょっと触れずに、遠回しからスタートっていうところもある。見きわめるのはやっぱり、初対面のときのやっぱりお顔のかたさとか、お母さんの態度とか」

- 引くことも大事

「働きかけをしていってもやっぱりかたいってことになるのと、かなりお母さんの中でのしんどい状況があるんだなと思ったらそういうときはちょっと引いてですね」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 助言する際のコツ

- 認めて、共感して、できそうなことから

「できてるところを認めて、大変なところに共感しつつ、ここ、もう一踏ん張りみたいなのは、『じゃ、ここだけやるっか』みたいな感じで伝える」

- 他にできそうな方法を一緒に考える

「大体のお母さんはいけないってこともわかってるから、『じゃ、別の方法、何かある？』みたいな感じで…」

- 「あなたのことを思って言ってる」ということが伝わるように

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### エンパワメントする

- 頑張っていることをみつけて認める、保護者が意図してやっていることを言葉にして伝える

「お母さんの健全性とか、お母さんの今まで経てきたところの、頑張っておられるところとか、いいとこって絶対あると思うんですね。だから、やっぱりそこをあらゆるデータから探していくっていうのが、保健師の面接の前にやっておくっていうのは大切」

「母さんの上手なかかわり、子どものタイプに合わせた上手なかかわりっていうのを、そこ、すごいよねって…」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 困りごとの糸口をみつけるコツ

- 健診場面でのできごとを日常生活の困りごとに結びつける

「3歳児になってくると、自分で座ろうとする子がいたり…ほんとうは健診早く流したいですけど、ちょっとやってる姿を見守りながら…『嫌がるのよね、これ』とかって言いながらすると、日々の生活と結びついていたりするので、そこでも嫌がってね、ベルトしててももう外れて出ていく子どもさんとかがいたら、もうまさしくちょっと『大変やね、お母さん』っていう感じの話になる。健診のその場面場面で日常生活に置きかえた困り事だったりとか、日々やっておられる育児の部分と結びつけていくと、きっかけは見つかる」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 困りごとの糸口をみつけるコツ

- **身体面の困りごととは共有しやすい。まずはそこから。**

「体の部分は一番共有しやすいと思うので、『今、何か定期的に病院に行ってることありますか』とかっていう問診項目のところで、ぜんそくとかアトピーとか、確認した中で、今日の診察でよく診てもらいたいところを聞く」

- **子どもの立場から困りごとを共有する**

「子どもの立場で何が困ってるのか、どういう環境が改善したら子どもが楽に生活できるのかっていうのをお母さんと共有していく」

- **困りごとの背景の把握に努める。**

「お母さんの生活史とか既往歴とか家族関係とか、経済的な理由とかでなかなかサービス使えないとか、夫婦関係の悩みとか、同居のストレスみたいなのが結構多い。自分の立ち位置みたいなところで悩んでるお母さんもいるし、ステップファミリーももちろん多い。」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 話をひろげるコツ

- 子どものできているところを共有する。
- 子どもの好きなことから話題を広げる

「子どもの好きなことを言葉にして伝え、そこから困り感を表出させる。結構もうほんとうに好きなことから話題がどんどん広がる」

「子どもは何が好きか、好きな遊び、好きな食べ物みたいなところからやっぱり話題が広がったりとか、そこが発達特性の把握につながる人が多いので、結構好きな食べ物になると、そこから、実は白いものしか食べませんとか、電車、車、すごい好き過ぎたりとか、数字が好きとか、3歳児健診でも端から数字だけ読んでるお子さんとかもいるので。子どもの世界から話題を広げていってというのがやっぱり一番保護者と課題を共有しやすかったり、子どものタイプを共有しやすいかなと思います」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 聞きづらいことを聞くときのコツ

- 躊躇しない、さらっときく

「健診の中でもわりと話してくれますね。パパがアルバイトとか書いてあるので、『アルバイトじゃ大変だよね』って。『何人家族で、家賃どのくらいなの？』みたいな感じで具体的にどんどん聞いちゃう。躊躇してると違和感があるので、さらっと聞く。『あ、それじゃ大変だよね』って、そうすると、支援者についても『実家から仕送りとかしてもらってるのかな？』みたいな感じで。」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 潜在的な健康課題をキャッチするコツ

- 親子の様子から潜在的課題をキャッチする

「例えば、冬場でもはだし、母子健康手帳がたばこ臭いとか汚い、健診の場でどなる、たたく、放置、スマホをいじって子どもを見てない、健診の受け付け時間ぎりぎりに来て、早くしろって言う、保育園の話題を聞いても全く把握してない、初対面の保健師のお膝に入ってくる子ども、年齢不相応な言葉かけをしてるお母さん、子が母さんの顔色うかがってる、など」

- 自ら発信することが苦手な保護者のしんどさをキャッチする

「フェイススケールで（1は【にっこにっこ】、2が【まあまあ】、4番【悲しい】、5【涙】）、4、5はもちろんですが、結構1番も要注意でみている。大変なことがない子育てなんてないのに、意外と困り感を外に発信しにくいお母さんは1番につけてくるんです。大体のお母さんは2番なんですよ。なので、ここは丁寧に聞いて潜在的な課題を把握する。」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 継続的支援、「つながる関係性づくり」のコツ

- 子どもの遊ばせる場所など、保護者の関心が高そうな話題から入る

「お母さんに、『お母さんって行く場所とか、近所とかで、何かそういう、子どもさんって、遊ばせる場所とか、どこある？』っていうのは結構聞いてますね。そしたら、『ここ、ここ』とか、『ない』とか、あと、何かかんか言ってくれはるので、そこを糸口にして、『こんなところあるけど、知ってる？』とか。あとは、一緒に行くこともね、場合によってはしないといけないので、ただ、健診では自分がその地区担かどうかわからないので、その場合には、『ちょっと地区担に言っとくね』とか、そういう感じとかでつなげていく」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 継続的支援、「つながる関係性づくり」のコツ

- 拒否傾向でもこちらはこれからも支援したいことを発信しておくことが大事

「しつこいって言われるかもしれないし、それが逆に追い詰めてるっていうこともあるかもしれないので、そこはちょっと見きわめるんですけども、相手の方にもタイミングがあって、結構やっぱり拒否の方って波があるので、すごくもう拒否的なときと、何かふっと入るときがあったりとか、ほんとうに困ったときに、どうしようもなくっていうときのタイミングだったりするので、やっぱり諦めずについていうことなんですかね。何かタイミングが合うときがあるので、やっぱり発信を細々とでもしておくっていうことができたらいいなと思ってます。」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 継続的支援、「つながる関係性づくり」のコツ

- 具体的に伝える

「やっぱりやってもらうことも具体的に伝えるっていうことですよね。例えば、指さしできてなかったら、『お散歩、どこ行くの?』といったことから入り、『じゃ、お散歩のときに』って言って、お花とか見るとか、犬好きとかであれば、『あ、なそれら、そのときに、お母さんね』って言って、『あ、わんわんね』って言って、『お母さん、ここでこうやってね』って、『そうしたら、子どもさん、ここの指先の先のわんちゃん見るからね』という感じで言って、『そういうことをしていると、その中から犬っていうのが入ってきますよ』って言って、『それで自分が犬を見たときに、わんわんって言ってくれる』ってというような、お母さんのそういう働きかけがこういうふうに戻ってくるっていうのを具体的に伝えます」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 継続的支援、「つながる関係性づくり」のコツ

- 見通しをつける

「発達検査で、例えばできなかったことが、今のところではこのレベルっていうところで、ここから半年で、お母さんがこういうふうにする  
ことでこういうふう伸びていくと思うので、このところをこういう  
ふうにして下さいっていうように…」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 多職種連携で対象者の特性に合わせた支援へ

- 保護者が受け入れやすい職種からまずはアプローチする

「お母さんと早いうちに子どものタイプを共有しておきたいっていうようなお子さんがいた場合、言語聴覚士さんの相談なら、発音とか言葉を増やすとか、そういう視点だったら来てくれるというお母さんもいるので、1回そっちに来てもらって、言語聴覚士の先生と一緒に共有しながら、じゃ、この部分は心理の先生にもう1回確認しようみたいな感じで心理相談にもってくってっていうやり方をすることもある」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 他機関連携の際のコツ

- 同意を取る際に…

「『私、心配なので…』みたいな感じで、『だから、ちょっと念のために、園に入った様子、聞いてもいいですか？』といった感じで了解を得る」

「園生活でも、じゃ、家と同じように困ってるかもしれないって、子どもが困らない環境をつくるように園と橋渡しするっていうのが保健師のできることなんですよっていうところを伝えた中で、園と連携とることの同意を得る。」

「子どもの生活しやすい環境をつくっていくために、保育園とか、専門機関もあわせて、支援者と母子をつなぐことができるのが私たち保健師の役割だから、お母さん、困ったことがあったら力になりたいから言ってくださいねっていうような立場を伝える」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### ベテランの心構え

- 「来てよかったな」と思える健診はどんな健診か、常に意識して考える

「やっぱり一番は、保護者にとって来てよかったなって思える健診じゃなきゃ、もう来たくなくなるので。当然なんですけど、だから、来てよかったなって思える健診ってどんな健診なんだろうっていうところはすごく意識していて、もちろん病気が早期発見できることはよかったし、ああ、もうこんなことができるようになったんだとか、こんなに大きくなったんだって、成長を一緒に感じて、一緒に喜んでいける存在ってところでは、共有できて喜び合えるし、あとは、悩み吐き出して受けとめてもらえたりとか、必要な制度とか支援につながるきっかけみたいところだと思う」

# 2-1資料1

## “保健指導のコツ” ～熟練保健師インタビューから～

### 乳幼児健診を通じた人材育成のコツ～後輩に向けてのアドバイス～

- **カンファレンスの場を活かす**

「カンファレンスがやっぱり一番吸収できる場だと思うので、私、こういう質問が出て、こういうところがあって、こういうふうに伝えましたみたいなどころをみんなが発表するので、ああ、そうかそうか、『次はこれ足したらいいんじゃない?』みたいな感じでアドバイス、こういう方法もあるよねみたいな感じで。」

- **対象者から学ばせてもらう姿勢**

「お母さん、子育てしてるとなると、やっぱり尊敬される方だと思ってるので、そういうつもりで、『お母さんに学ばせてもらうって感じで面接させてもらったら?』っていう話は（若い後輩に）してるんです。」

- **足で稼いで、たくさんお母さんと子どもさんに会うこと、もうこれに尽きる**

# 謝辞

お忙しい中、熟練の技について貴重なお話をお聞かせ  
くださった保健師の皆様、スキルアップ研修の企画から  
一緒に取り組んでくださった高槻市子ども未来部子ども  
保健課の職員の皆様に感謝申し上げます。